

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハートケアライフ八軒 ひだまり	評価実施年月日	平成20年12月20日～平成21年1月5日
評価実施構成員氏名	神原 陽子・高橋 昌隆・本間 久美子・木村 達也・藤川 美雪・村上 幸子・中川 麻衣・加藤 美穂		
記録者氏名	神原 陽子	記録年月日	平成21年1月7日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をユニット入口の壁面に掲示して、職員や来訪者が常に確認出来るようにしている。理念を記入したカードを職員個々が携帯している。</p>	○	<p>職員全体で確認の機会を設け、定期的に再確認を行う。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>外部からの見学時や入居時及び運営推進会議等で理解をして頂くよう努力している。ご家族が日常的に来所され、対応した職員が理解を得られるような声かけをしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方々にお会いした際の挨拶を含め、近くの商店を利用者が日常的に利用し、顔なじみの関係を作り上げている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>年数回の運営推進会議に自治会や地方公共団体の方に参加して頂き、交流を持っている。町内会のお祭りや餅つき会に利用者が積極的に参加して地元の方々との交流に努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の中で話し合いをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価結果を運営者及び管理者から、全職員に説明して改善すべき事項については、ユニット会議時に全職員に周知徹底して、具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で提案された意見を参考にサービスに役立てている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者会議での市の保健師の声を聞いたり、介護保険課の担当者や生活保護課の人と相談して、その利用者にとって暮らしやすいように常に考える機会を多くもっている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>主に管理者が必要と思われる人に説明をして、活用する支援をしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>事業所の方針として、各職員が積極的に外部研修に出席して学んでいる。職員全員が利用者の尊厳を守る認識を持ち、虐待防止に努めている。</p>	○	ユニット会議時に学習会を開き、虐待防止の徹底を図る。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約は、分かりやすい説明をして納得できた時点で行っている。解約は、相手の話を聞き不満や不安がないか再度、確かめて、十分に理解された上で行っている。</p>	○	不安や不満については、いつでもホーム側へ問いかけやすい声かけを常に心掛けていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とのコミュニケーションを密にして、職員に対して何でも話せる雰囲気作りに努めている。来所されたご家族等に対しても、ご本人から不満等ないかの声かけをおねがいし、ケアの改善に努めている。	○	コミュニケーション技術・応接態度については、外部研修及び日常ケアの中で学習し、向上を図っていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来所時に日常の様子を口頭でお話している。月一回、介護記録の複写をキーパーソンにお送りしている。	○	今後も継続し、ご家族の理解と協力を得る努力をしていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来所された時や電話でお話しする都度、ご意見や不満についてお聞きしている。意見・不満があった場合は、すぐ管理者に報告し、即、対応している。	○	更に、家族等との連携を密にして、意見等を自由に表せる機会をつくり、反映させていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ全員の意見は、その都度又はカンファ・申し送り時に聞き、良い意見は取り上げて、実行している。	○	スタッフが、建設的な意見を発言できるような職場環境にしていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	通常の勤務では、可能な限り職員の休み希望を受け入れ、必要時には、勤務変更により協力してもらえらる職員内の意識を作り上げている。緊急時対応できる職員を確保するなど調整をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人事は、運営理念や就業規則に沿って、対応している。職員のストレスや事情を早期にキャッチして、離職を最小限に抑える努力をしている。	○	更に、配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>法人内外の研修を受ける機会を積極的に利用して、働きながらトレーニングしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>事業所は、グループホーム協会に加入しており、協会の催す行事には参加している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>個々の不安や不満を聞き、解決策を考えて実行している。</p>	○	更に、一人ひとりの声に、耳を傾けていく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員個々の実績を把握して、待遇している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>管理者が窓口となり、対応している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>管理者が窓口となり、対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者が窓口となり、対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前の見学を必ずしていただき、職員や他利用者及びホーム内の雰囲気を見て納得の上、入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長年、社会に貢献されてこられた利用者の個性や考え方に目を向け、喜びや悲しみを共感しながら、共に生きる視点を持つように職員間で話し合っている。	○	常に、利用者の心情を汲み取る事のできる職員の力を育てる努力をしていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	通院に付き添うことのできる家族にはお願いをして、ホームに任せきりにならないように共に支える姿勢をとっている。ご家族からの不安や心配には、その都度丁寧に対応し、共通認識が持てるよう支援している。	○	常に、オープンな関係に心がけ、共通認識の共有することで、ともに支援していく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	本人や家族がそれぞれに持つ不安を受け止め、より良い関係を築くための支援をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望により馴染みの場へ行ったり、面会・電話・手紙などで、良い関係が途切れないように支援している。	○	今後も、希望に沿い、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が互いの意思で交流が持てるように見守り、必要に応じて間に入り、輪を深めている。	○	利用者の自発的なコミュニケーション力を尊重しながら、互いに支えあえる関係づくりの支援をしていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	連絡があれば、その都度応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が、日常の会話の中で、一人ひとりの思いを把握する心構えを持ち、実践しているまず、本人の思いを第一に考えている。	○	職員が、一人ひとりの利用者とのコミュニケーションを深め、把握できる力をつけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時のアセスメントで可能な限り、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常業務の中での観察をきめ細かにを行い、変化があった時には、チーム全体で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	おおむね3ヶ月に一度ケアプランの見直しをしている。作成前に、ご本人・ご家族の希望を確認して、ユニット会議で評価と新規プランの作成について、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化により、介護計画が実態とそぐわない時は、その時点で見直しをしている。	○	常に、利用者の変化やニーズを把握して必要に応じて、見直しをしている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や利用者個人連絡ノートなどに記入して、情報を活かしている。	○	更に、正確で分かり易い記録を徹底して、ケアの実践に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族と常に連絡をとり、枠にはめず、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議での参加者との協議、避難訓練や救急法研修での消防の協力、ギター演奏や演芸などの趣味活動、体験学習受け入れでの中学生との交流などをおこなっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	在宅時のケアマネジャーに以前の様子を伺ったり、各サービスに問いかけている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	その人が必要と感じてきたら、連絡をし協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	医療連携体制により、毎週ナース訪問看護・2週毎の医師の往診があり、ご本人・ご家族が納得されているが、専門医に関するかかりつけ医療機関へは、希望に沿い受診されている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医療連携の医師は、認知症についての知識を有しており、職員が気軽に相談することができている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護師にいつでも連絡できる体制ができている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の医療機関に定期的に職員が訪問し、早期退院に向けた支援をしている。	○	今後も、入院された利用者には、支援をしていく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在、重度化し、常時医療的処置が必要になった場合は、医療機関に移られている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期までのケースはないため、今後の検討や準備が必要と思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住替えによるダメージを防ぐことに努 めている。	管理者がその役割を担っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取扱いをしていない。	利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応については、常に内部で注 意し合い、徹底して支援している。個人情報の取り扱いについても、配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている。	利用者一人ひとりに合わせた説明や対応を、職員全員の共通認識の上で、支援す るよう努めている。本人が、思いを表出できる働きかけを工夫している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそつて 支援している。	ユニット全体の生活の流れはあるが、常に希望に耳を傾け、事情の許す限り、本人 のペースを守るように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援し、理容・美容は本人の望む店 に行けるように努めている。	理・美容については、訪問を希望される方には、その都度連絡をしてホーム内でし ていただいている。馴染みの店へ行かれる方は、ご家族が付き添って下さっている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員がその人に合わせて、一緒に準備や食 事、片付けをしている。	利用者に進んでしていただける、盛り付け・配下膳・片付けなどは、職員と共に行っ ている。体調や嗜好に合わせて、できる範囲で調理も別にし、工夫している。	○	今後も、共に行い、楽しみのある食事の工夫をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒の好きな利用者のために、週一回「お酒の日」を作り、夕食時に楽しんでいただいている。希望により、職員と共に買物に出かけている。外出できない利用者の分は、職員が代わりに購入している。	○	可能な限り、本人の希望に沿い、支援をしていく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、医療職に相談の上、下剤調整の介助をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に沿って、入浴していただいている。間隔が開きすぎる為、清潔が保てない利用者には、こまめな声かけや、清拭・足浴などで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	各利用者の生活習慣に合わせて、休息がとれるよう支援している。昼寝の習慣のある方、休息をとられている方には、無闇に声かけをせず、そっと見守りをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活の中に張り合いを持っていただくため、本人にとって負担にならない家事・役割などを受け持っていたりしている。外出の機会をつくる、散歩をする、室内外でのレクリエーションを工夫するなどの支援に努めている。	○	今後も、利用者の持てる力を見つけ、生きがいと張り合いのある暮らしの支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で現金を所持することを望む方には、毎月定額をお渡しして、管理していただいている。その他の方は、ご家族から預かったお小遣いをホーム管理者が保管し、本人の希望に応じて買物の支出をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>冬期間・悪天候以外は気分転換と健康維持のため、計画的に声かけし、徒歩あるいは車いすで散歩をしていただいている。ホーム周辺以上の距離へは、ホームの軽自動車を利用して、希望に応じて外出している。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>花見や紅葉狩りなどの季節の行事を始め、外食などの外出レクリエーションを年間行事に盛り込んでいる。ご家族へも行事の案内をし、参加を呼びかけている。その他、個別に希望のある時は、可能な範囲で支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p> <p>希望があれば、その都度、職員が電話の取次ぎをしたり、手紙を投函するなどの支援をしている。事情があり、ご家族から特に相談がある方については、その都度、ご家族に連絡している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>いつでも、来所しやすい雰囲気作りを職員全員が心掛け、接客態度には、気を付けている。お帰りの際には、来訪に感謝の意を表し、次の来訪の声かけをしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束になるような行為はせず、利用者の尊厳を守るケアに努めているが、「具体的な行為」については、今後、更に職員に正しく理解してもらう必要がある。</p>	○	更に、具体的な行為を周知徹底していく。
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>日中は、施錠はしていない。夜間は、夜勤者だけになるため、防犯上、玄関のみ施錠している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、最低30分に一度以上、夜間は、最低1時間に一度以上本人の安全確認をしている。夜間は、プライバシーや安眠妨害に配慮しながら、物音に気を配るなど、危険防止に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	出来る限り、本人の馴染みの物・使用物品を手元に置いていただくよう配慮しながら、注意の必要な物品を把握して、気を配っている。ホーム使用の洗剤・薬品等は、扉付きの棚に保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各利用者の情報を職員間で共有して、事故を防止するための情報交換を毎日の申し送りやユニット会議で行っている。	○	更に、徹底していく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当の書籍・緊急対応マニュアルを職員の見やすい場所に置いている。定期的に外部講師による緊急対応・救命法等の学習会を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回実施しており、近隣の方へも、機会ある毎、お願いをしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	居室で飲食を希望される利用者については、誤嚥時の対応が遅れることのリスクを説明し、ご納得いただいている。更に低下し、危険が増す恐れがある場合は、その都度、説明し相談をする。居室内での転倒についても、説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	各職員が、一人ひとりの利用者の普段の様子を把握して、「普段と違うところ」に気付く努力をしている。気付いた職員は、周りの職員に口頭で伝え、更に、介護記録・個人連絡ノートに記入し、不在の職員にも確実に伝えるよう努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を書く利用者の緊急持ち出し袋に常に入れておき、いつでも確認できるようにしている。薬の内容に変化があった際には、薬名・服用(点眼・塗布)方法・目的などについて、個人連絡ノートに記入して、全職員が理解できるよう努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者の便秘になりやすい要素を押し量り、予防のため、ヨーグルト・ヤクルト・ブルーベリーなどを積極的に摂っていただいている。体操・散歩・歩行運動などを毎日の日課に組み入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自主的にされる方には、見守りをし、されない方には、声かけと確認、必要に応じて介助をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べられない物・食べたくない物をアセスメントや日常の会話の中で把握しておき、明らかに残されると予想されるメニューの場合は、調理前に確認して、その方の分は、調理法方や味付けの工夫をしている。毎食、残量の確認をして原因等を探り、栄養バランスの確保に努めている。	○	塩分・糖分の過剰摂取に注意する。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは、毎年利用者及び職員全員が予防接種を行っている。外出後及び職員の出勤時の手洗い・うがいの励行、介助後の手洗い、台所用品の消毒を行っている。利用者の寝具は、おおむね週1回(汚染時は、その都度)洗濯・乾燥を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は、3日毎に購入し適正な保存を行い、賞味期限内に使っている。調理済みの残り物は、次の食事に出す事はせず、廃棄している。利用者個人の飲食物は、必要に応じて冷蔵庫に保管して、賞味期限内に飲食していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の清掃を毎日行い、春から秋にかけては、花を飾り雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り付けは、毎月季節感を採り入れ、変化をつけている。夜間の照明は、廊下は自動に切り替え、フロアは必要最小限にしている。居室の入口の扉の開閉による大きな音がしないように、テープを張るなどの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれの利用者が寛げる居場所を持てるように、共用のソファ・椅子などの配置の工夫や、利用者が互いに寄り添ったり、譲り合ったりできるよう見守りをし、必要に応じて声かけをしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は、危険の無い範囲で本人の好みを尊重し、配置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に、温・湿度計と加湿器を設置し、本人の希望を聞きながら、適度な温度環境にしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段・廊下・トイレ・浴室には、手摺りを設置している。浴室内は、滑り止めマット・バスボード・シャワーいすなどを利用している。居室内は、本人の希望を聞きながら、安全に移動できるように、物を配置している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	可能な限り、自立した生活の支援の為、どこができて、どこができないのかを見極め、できる部分は見守り、できない部分は介助をしている。自立してできること、やろうとされていることには、支持的態度で接している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム横の空きスペースを菜園にして、利用者と共に季節の野菜を育て、活動の幅を広げている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)